

檜原村地域再生可能エネルギー導入計画に対する意見の内容及び検討結果

番号	意見の内容	検討結果（村の考え方）
1	<p>太陽光発電システムをいかに普及させるか？</p> <p>檜原村において太陽光発電システムの普及は未だ多くなく、これは山間部における日照時間の少なさや、余剰電力の売電単価が下がり、太陽光発電の魅力がなくなったのが要因と思います。</p> <p>昨今、蓄電池を併用した自家消費型の太陽光発電システムが普及してきております。</p> <p>この自家消費型の太陽光発電および蓄電システムの各戸設置は、初期投資が大きな負担となってしまいます。東京都の蓄電池の補助金を利用も一時的なもので、もっと村民のためになるには、営農型の太陽光発電を組み合わせることがよい方法かと考えます。</p> <p>営農型太陽光発電システムとは、太陽光発電システムを庭先や畑地に太陽光を設置してそのパネル下で作物を育てることで、檜原村において育てやすい作物はキクラゲの菌床栽培が良いかと思えます。</p> <p>収穫したキクラゲは個々で販売するもよし、村で買い上げ、檜原村の特産品にして販売したり、加工食品に添加したり、給食に使ったり色々使え、地域再生につながるかと存じます。</p> <p>使用済みの菌床はバイオマス発電の燃料にもできますし、そのまま畑で肥やしにもできます。近年、国産キクラゲの需要が高まっており営農型の太陽光発電のみならずキクラゲの栽培だけでも村の産業に加えていけるかと思えます。さらに飛躍的に考えれば、檜原村において</p>	<p>ご提案につきましては、貴重なご意見として、今後の取り組みの参考とさせていただきます。また、ご意見が他の部局との調整を要するものとなっておりますので、情報の共有をさせていただきます。</p>

キクラゲの菌床づくりの工場をも建設して菌床の製造・販売もできる  
ようになれば村の産業にもなります。

檜原村に入村後、村のメリットデメリットを感じるにあたり、何とか太陽光発電の普及につながる方法がないかと考えていたことです。